

# りえぞん



編集・発行  
独立行政法人 国立病院機構  
奈良医療センター  
<http://www.nho-nara.jp>

Liaison

Vol.23

国立病院機構 奈良医療センター

平成25年5月

医療機関の皆様へ 「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。  
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

## 平成25年度が始まって

独立行政法人国立病院機構は次期中期計画の5年目の最終年、すなわち独法化してから10年目になろうとしています。政権が変わり日本の経済も新たな局面に向かおうとしている中で、25年度の医療・福祉に係る当院の方向性をどのように展開するか、激動の医療界で「踏みとどまる」ことは「現状維持」になってしまいます。医療・福祉の制度とともに内容も実情に応じて変わりつつある中で、「このままで良い、この状態を保つ」ことは退行への道をまっしぐらに進むのではないのでしょうか。進歩するか後退するかの2つの選択肢の中で、変わることに対応できればチャンスを生かすこととなりますが、対応できなければ、そこには危機しか生じてこないでしょう。このままでいいと考えるとところに向上心は育ちません。医療・福祉の世界で仕事を続けている限り、毎年の研修の積み重ねが求められます。迷うこと、悩むことも多い中で、目標をしっかりと定めて、「ぶれないこと」と「多種多様なニーズに対応すること」をいつも考えています。



院長 星田 徹

今年度の病院全体目標は、昨年の目標（チーム医療の強化）を発展させて、「患者、家族が安心・納得のできる医療に努めさらなる健全経営をめざす」としています。職種グループの集まりだけでは、向かう方向性が異なり、職種間の溝が残っていて患者中心の医療に踏み込めない状況になります。チーム医療は患者・家族が安心して納得できる医療となることを目的とします。患者・家族の安心や納得が得られるには、職員自体がこの状況の中で安心、満足が得られているかにかかっています。キーワードは患者、家族、そして職員が一体となって協力し合うとともに、お互いに見守る体制を強固に作り上げることだと考えてこの25年度に向かいたいと願っています。

当院の25年度の目標として、この秋に完成する新病棟へ安全に安心して移転すること、障害者病棟7：1看護体制を維持し、さらに充実させていくこと、昨年度まで掲げていた病院全体目標であるチーム医療をさらに強化させること、念願の一つである呼吸器疾患センターの開設を始めること、昨年度から始めている機能的脳神経外科センターの充実を図ること、医事だけでなく庶務・企画も含めた事務部門の体制強化を図ること、24年度から新たに加わった療養介護事業のさらなる充実を推し進めること以上の7つを掲げています。病院職員が一丸となり、患者や家族が参画し、地域の住民と一緒に協力して、この目標に向かって一歩ずつ確実に進めます。

平成25年4月